

# 見守りを通して 生まれる 子どもたちとの交流



古川 浩一 紀子

平成23年から国立第二小学校のボランティアとして、ご夫妻で登校時の見守り活動を行っている。その他に、中央玄関横にある花壇にバラを植えるなど年間を通して花壇のお手入れを行っている。

見守り活動をはじめたきっかけを教えてください。

紀子は、民生委員を通して、地域の方との関わり、知り合う良い手段だと思い、活動を始めました。浩一も手伝うようになり、特に、紀子に用事があり見守り活動に参加できないときには、全面的に援助していただきます。

見守り活動について教えてください。

毎日、午前7時40分から8時30分までの間、児童・生徒の登校時に見守り活動を行っています。信号機のない交差点で、

近年、国立北から甲州街道に抜ける唯一の道にあり、交通量の多い地点です。そこを、二小、三小、五小、国立学園、国立音小、桐朋学園、一中、二中、都立五商に通う生徒たち、通勤者などが行き交う中、工事車両や給食配膳用のトラック、通勤の車や通学の自転車が絶え間なく通過しています。大変危険な場所での子どもたちの横断を見守っています。

嬉しかったことや印象に残っていることなど教えてください。

子どもたちと一瞬でかわす言葉でも知り合いになれることを実感しています。

うっかり、土曜登校日のことを忘れてしまうと、子どもたちが迎えに来てくれることもあります。

俳句の5・7・5の勉強をした小学生が「ふるかわさん いつもみまもり ありがとう」と作ってくれ、交差点を渡る子どもや渡る車などを絵に描いて持ってきてくれました。相談事があるご家庭に、旧民生委員として初めて訪問した時に、中学生が、インターホン越しに「いつも交差点で見守りをしている人！」と家人に取り次いでいるのを知り、マスクをしているのに覚えてくれてるのに驚いたこともありました。

最近の小学生について教えてください。

とても人懐っこい子どもが多いです。一橋大学の土手にある植物観察をしながら話が弾みます。子どもの中でガンダムのような人気キャラクターを一生懸命話してくれます。自分の日常を大人に伝えたいと思っているようで、相手をしてあげると限りなく話し続けてくれます。

「おはよう」と返せない子どももいますが、子どもの目を合わせるように、「寒いね」、「今日は荷物重そうだね」などと声掛けをしていると、「おはよう」ときくと応えてくれる日があると信じています。

子どもたちの中には、目を合わせず、必ず、「おはようございます。行

ってきます。」と言わないと満足できない生徒もいます。

見守り活動をする中でお気づきの点などありますか。

歩道を記す白線が薄くなりほとんど見えない状態でした。一時停止の標識を無視する車が多く、市に対応をお願いしても予算がなく、順番待ちの状態でしたが、やっと白線を描いていただき、「止まれ」の看板も近くに立ちました。

子どもの命を守ることにもっと敏感になつてほしいです。交通事故が起きてからでは遅いです。歩道にぴかぴかの白線が書かれ、長年の要望がやっと実現したことに、父母からの感謝の声がありました。

毎日の見守りをしていると、児童や生徒は、「自分に目を注いでくれる大人がいる」と感じていると思います。毎朝のなにげない見守りが子どもたちの順調な成長を助けっていると信じています。



▲二小で花壇のお手入れをしている古川夫妻  
花壇の世話をしていると、「何をやっているの?」と興味津々に聞いてくる子、そっと後ろで写生している子。美しいものには誰もが感じ入るのですね、と紀子氏。